

Mémoires 2020

フェブラリーステークス

第37回フェブラリーステークス(GI)優勝馬モズアスコット



新たな舞台で復活の勝利



▲アルクトス(帽色・白・右)とワイドファラオ(帽色・黒・右)が馬群を引っ張り直線へ。



▲芝のトップマイラーがダートGIでもその力を見せた。

世界的名馬を父に持つ良血馬が、芝とダートの「二刀流」王者に輝いた。

前年12月のチャンピオンズカップ1、2着馬であるクリソベリルとゴールドドリームは、揃ってサウジアラビア遠征のため不在。3着に逃げ粘ったインティは東海ステークスを挟み、このフェブラリーステークス連覇を目指し出走してきたが、そのインティを抑えて1番人気に推されたのは、ダート戦の出走はこれが2戦目というモズアスコットだった。

2018年に安田記念を制してGI馬となったモズアスコットは、6歳を迎えたこの年、ダート路線へ。初戦の根岸ステークスではスタートで出遅れるも、最後は大外から鋭い末脚で差し切り勝ちを収めていた。

前年のユニコーンステークスを逃げ切っているワイドファラオと、盛岡のマイルチャンピオンシップ南部杯2着のアルクトスが並んで引っ張り、レースは緩みのないラップで流れた。インティは4番手の外で直線に向くが、そこから伸びない。好位の直後で馬群の内を進んだモズアスコットがそれを交わし、一気にスパートする。3番手から抜け出して先頭に立とうとするタイムフライヤーにあっという間に迫り、残り200mで捉えると、あとは独走だった。

後続との差がぐんぐん開く。クリstofルメール騎手が後ろを振り返る。このレース最低人気ながらJBCクラシック勝ちのあるケイティブレイブ、前年秋のマイルチャンピオンシップ南部杯を制したサンライズノヴァ、武蔵野ステークス勝ち馬ワンダーリーデルらが懸命に追い込んでくるが、その2馬身半前で、モズアスコットは流すようにゴールを駆け抜けた。

父は14戦無敗で引退したイギリスの怪物フランケル、母系にはアメリカのダートGI勝ち馬や名種牡馬ブライアンズタイムがいるモズアスコット。「年齢を経て体型も変わり、時計のかかる芝やダートが合う」と矢作芳人調教師がにらんだ通り、そのポテンシャルには芝もダートも関係なかった。「二刀流」のJRA・GI制覇はクロフネ、アグネスデジタル、イーグルカフェ、アドマイヤドンに続く史上5頭目、16年ぶりの快挙だった。

第37回フェブラリーステークス(GI)

2/23 東京競馬場 1600m(ダート・左) 晴・良 16頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	モズアスコット	牡6	57	C.ルメール	矢作 芳人	1:35.2	①	⑧⑧
2	ケイティブレイブ	牡7	57	長岡 禎仁	杉山 晴紀	2 1/2	⑬	⑨⑨
3	サンライズノヴァ	牡6	57	松山 弘平	音無 秀孝	1 1/4	③	⑫⑬
4	ワンダーリーデル	牡7	57	横山 典弘	安田 翔伍	ハナ	⑦	⑫⑪
5	タイムフライヤー	牡5	57	S.フォーリー	松田 国英	1 3/4	⑩	③③
6	キングズガード	牡9	57	秋山真一郎	寺島 良	2 1/2	⑭	⑭⑬
6	モジアナフレイバー	牡5	57	繁田 健一	福永 敏	同着	⑪	⑭⑬
8	ノンコノユメ	騾5	57	真島 祐輔	荒山 勝徳	1/2	⑨	⑪⑪
9	アルクトス	牡5	57	田辺 裕信	栗田 徹	2 1/2	④	②①
10	ヴェンジェンス	牡7	57	幸 英明	大根田裕之	アタマ	⑤	⑦⑥
11	ミューチャリー	牡4	57	御神本訓史	矢野 義幸	1/2	⑮	⑭⑯
12	ワイドファラオ	牡4	57	福永 祐一	角居 勝彦	1 1/4	⑥	①②
13	ブルドッグボス	牡8	57	和田 竜二	加用 正	6	⑯	⑥④
14	インティ	牡6	57	武 豊	野中 賢二	クビ	②	④④
15	デルマルヴル	牡4	57	M.デムーロ	戸田 博文	1 3/4	⑧	⑨⑩
16	ミッキーワイルド	牡5	57	北村 友一	安田 隆行	1 3/4	⑫	④⑥

単勝 ⑫280円 複勝 ⑫160円 ⑮2,160円 ⑯220円 枠連(6-8) 3,100円
馬連 ⑫-⑮36,230円 馬単 ⑫-⑮46,980円 ワイド ⑫-⑮11,170円 ⑯-⑫520円 ⑯-⑮18,320円
3連複 ⑯-⑫-⑮95,310円 3連単 ⑫-⑮-⑯464,920円

ハロンタイム 12.5-10.9-11.2-11.8-12.3-12.2-11.9-12.4
通過タイム 600m:34.6-800m:46.4-1000m:58.7-1200m:1:10.9-1400m:1:22.8

優勝馬 モズアスコット

2014.3.31生 父Frankel 母India 母の父Hennessy
米・Summer Wind Farm生産 馬主:(株)キャピタル・システム